



第728号

令和8年2月23日

題字は二代真柱様

大阪市北区池田町13-17

天理教はるのひ分教会

TEL・FAX

06-6358-2630

購読ぐらしへ学びと試み

はるのひ館



▶はるのひホームページ▶
▶フロンティア次報▶
1412160101 09 聖蹟室館

『今から、私から①』

おやさま一四〇年祭活動、ありがとうございました。おかげさまで教会としても、私個人としても何とか最後までがんばってつとめることができました。お力添えに厚く御礼申し上げます。さて、なにことも一生懸命していると、次の塚、次の課題が見えて来るものですね。

私に見えてきた一つ目の課題は、「人間一人一人の課題としての生きる力・意欲をどこから得るか?」です。「生きる意欲なんて、ことさら考えなくても誰でもいつでも普通に生きているよ!」ですよ。

そうなんですね。でも、一月三十日の毎日新聞は、「小中高生最多五三二人」との見出しで昨年、みずからいのちを絶った子どもたちが「二年連続で過去最多となった」と報じています。

〈マイナスが強いほどプラスが強くなる〉というのが私の意見です。八十年以上前の戦前・戦中のように食糧など生活が苦しくマイナスが多ければかえって生きることに必死にならざるを得なかったでしょう。

ところが現代、一日に一人以上、人生をまだ知らない小・中学生たちがみずからこの世を去っている…?! また高齢時代の今では、なおも強く前向きに生きていくにはどうすればよいか? は喫緊の問題です。

未来は戦争や災害さえなければ、ますます豊かに便利になってマイナスが減る一方と予想されます。そうなるかと私たちはプラスすなわち生きる力・意欲をどこから得るのか?

確かに、イタリアで今行われているオリンピックピックの選手たちのように、目標という希望を持たずおのずと誰でも力強く前へ前へとさながら飛ぶように進んでいくでしょう。(3ページに続く)

心の成人をめざして

「よろこび・つつしみ・はたらき」

シリーズ

『詰所・ほうごつ雑記⑭』

芝 光男

おぢばへの「日参」

先日の教祖一四〇年祭・一月二十六日の本部神殿講話で、真柱様は「きょうをもつて一つの区切りがつかしました」と三年千日活動の終了を宣言されました。

さて、皆さんにとつてどんな二年間でしたか？

私は私なりに「やり切った」という思いを持っていきます。もちろん、ひと様からみれば、さらに神様からご覧になれば不十分かもしれませんが、そういう思いは持っています。

なぜかといえ、その三年間、私は「一切を不足を思わず受け入れていこう」と思い、実に実行できてきたからです。その元となったのが「おぢばへの日参、朝勤め参拝」でした。

はじめの一年目は日昼での参拝、そして二年目は朝の参拝、そして三年目は朝勤めへの参拝となりました。日参は、実行となると、毎日のことですからなか

なか大変です。夏は暑く、四時には起きなければならず、冬は寒く冷たい。お勤めに出てこられる先生方のお姿をみると、お役目とはいえ、毎朝毎夕のこと、ご苦労のことと思います。

私はなんとかやりとげましたが、結果これが日日の歩みの中で大きな自信となりました。日日に思い浮かぶ自分の思いや考えと向き合うことができたこと、あれこれの雑念が整理でき、時には重要な課題に深く思案を重ねることができたのでした。結果この日参は、ただおぢばに脚を運んだということだけではなく、続ける中で、三年間に起つてきたことへの対処に、それぞれ得に言われぬ自信と繋がっていったのでした。日参するうちに、ときには打開策が浮かんだり、思わぬ発想ができたり、頓挫するところを解決へと導いていただいたり、と。

もちろんなかなか解決には至りませんが、かなり前向きに考えることができたのでした。まさに「日参は日日の大きな力、支え」となりました。しかし最終日となった完遂する年祭当日の朝は、なんと帰参された方々の「おにぎり弁当」を取りに行く時間と重な

り、行くことはできませんでした(笑)。(神さんから「苦勞様」と言われた思いがしました)。

「日参」は、するものではなく、教会のすべてのことと同じように、「せずにはおれない」ものになっていったのでした。神事は「義理とやっかい」では誠がないのです。

— 一面からの続き —

目標や目的を見つけることはとても大切なことです。しかし、いつでも誰でも、はつきりした目標や目的を持てるとは限りません。ましてや、高齢ともなれば、希望を持ち続けることはだんだんむづかしくなるでしょう。

では、どうすればよいでしょうか？

おやさまは、「元にかえる」ことを教えられました。

《前に進むために、元にかえる》

一体どういうことでしょうか？

元とはなんでしょうか？

元は、なにもなかったのです。無だったのです。

無から始まって、気の遠くなるような長い長い時間の

末に、世界ができ生命が生まれさらにまた移り変わりの過程の末にようやく今日に至ったのです。このことを『元の理』というこの世元始まりの真実として教えて下さいました。

だから私は元とは、無であり、そこから始まった世界と生命ではないかと考えるのです。

人間は、世界と人生の意味を知りたがりです。自信を持つて、力強く明るく生きていくためにはそれが是非必要だと思うからでしょう。

確かに、意味が分からなければ、世界も人生も生きるに値すると思えないかも知れません。

しかし、意味より大事なものがあります。

価値です。価値を知っているのは創り主です。

同じく価値とは言っても、お金で換算できる相対価値ではなく、お金で換算できない絶対価値。

世界と生命は、お金で換算できない絶対価値。

それを知ることが「元にかえる」ということです。

そこにこそ、感動・感激、生きる力・意欲が生まれる。

世界に未来に、今から私から『元の理』を伝え、生きる力・意欲の絶対的根源を教えましょう。

☆お知らせ☆

☆おやさま140年祭、ありがとうございました。

☆2月26日(木) 9時 本部月次祭

☆2月28日(土) 18時 詰所祭

☆3月1日(日) 10時 女子例会・春季霊祭

☆3月8日(日) 別席日(車出勤はありません)

※別席場受付は、①午前8時～9時半 ②正午～13時半

☆3月8日(日) 9時半 おぢばがえり・ひのきしんと男子例会(詰所)

☆3月18日(水) 10時 茶道、13時 三曲練習

☆3月21日(土) 前日準備ひのきしん

☆3月22日(日) 11時 月次祭

☆3月26日(木) 9時 本部月次祭

☆3月29日(日) 18時 詰所祭

☆人生とは、生涯かけての心の成人・自分づくり

☆信仰とは人生観・世界観をみがきつづけること

そのために、用意されているのが

・おぢばがえり ・基礎講座 ・別席 ・三日講習会 ・修養科 ・講習

○修養科をおすすめしましょう！(毎月、25日までに申し込み)

・若い方=これからの人生の基礎固めとして

・年配の方=人生の美しい集大成のために